

平成 22 (2010) 年さけます来遊状況 (第 2 報 : 8/31 現在)

独立行政法人水産総合研究センター
さけますセンター

8 月に入り北海道東部の沿岸及び河川にはカラフトマスが本格的に回帰し、8 月下旬からはえりも以東海区を皮切りに秋サケ定置網漁業が始まりました。

今回、第 2 報として、8 月 31 日現在の北海道におけるカラフトマス及びサケの来遊状況等をお知らせします。

なお、来遊状況の取りまとめに当たって、迅速な情報提供などのご協力を頂いた北海道及び増殖団体の関係者等に感謝いたします。

1 カラフトマス来遊状況

- ・来遊数は 549 万尾 (対前年同期比 : 57.5%、平年同期比 : 89.0%)
- ・今年是不漁年に当たり、同じ不漁年の 2008 (平成 20) 年と同程度
- ・オホーツク海区を含む日本海側では 506 万尾、根室海区を含む太平洋側では 43 万尾

(北海道)

8 月 31 日現在、北海道のカラフトマス来遊数は 549 万尾 (対前年同期比 : 57.5%) と昨年を大幅に下回っています。これはカラフトマスが隔年で資源変動する特徴があり、近年では、今年が不漁年に当たるため、平年 (1989 (平成元) 年~2009 (平成 21) 年の平均) 同期比では 89% となっています。豊漁年と不漁年が入れ替わった 2003 (平成 15) 年以降の同じ時期と比べてみると、偶数年平均の同期比では 118% と近年の不漁年の中では若干多い水準となっており、2008 年度とほぼ同程度の来遊数となっています。(表 1、図 1)。

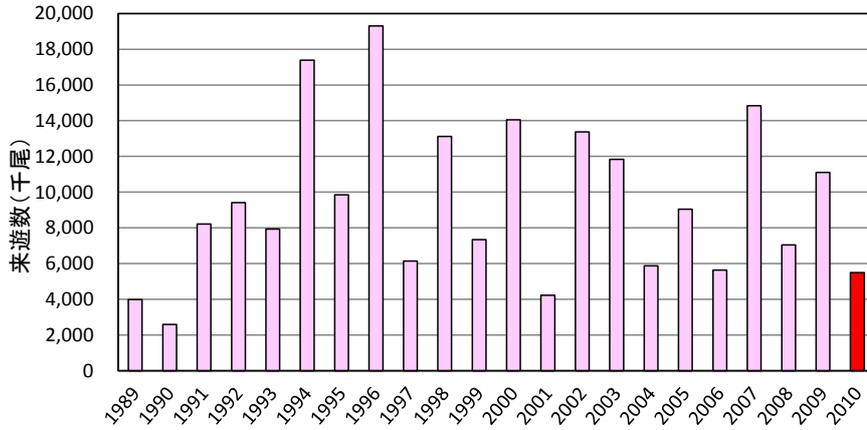
地域別にみると、日本海側 (オホーツク海区及び日本海区、以下同) では 506 万尾 (平年同期比 : 97.1%)、太平洋側 (根室~えりも以西海区、以下同) では 43 万尾 (平年同期比 : 44.8%) となっています。

表 1 : カラフトマス来遊状況 (北海道)

単位 : 万尾

	来遊数		沿岸漁獲数		河川捕獲数	
	8/31 現在	最終	8/31 現在	最終	8/31 現在	最終
2010 (H22)	549	-	534	-	15	-
2009 (H21)	954	1,111	897	979	56	131
2008 (H20)	552	704	525	612	27	92
2007 (H19)	1,335	1,491	1,278	1,347	57	144
2006 (H18)	278	559	269	465	9	94
平年	617	964	592	864	25	101

図1 カラフトマス来遊数



注：2010年は8月31日現在

カラフトマスの来遊時期は奇数年には早く、偶数年には遅くなる傾向があります。旬別来遊数をみると、8月上旬及び中旬は同じ不漁年であった2008（平成20）年と比べ、それぞれ65%、80%程度と低調な出だしでしたが、8月下旬に入ると120%程度と増加に転じています。（図2）。また、近年の沿岸漁獲と河川捕獲の傾向から、沿岸漁獲及び河川捕獲のピークはそれぞれ8月下旬、9月上旬頃になるものと想定されます（図3）。

図2-1. カラフトマス旬別来遊数

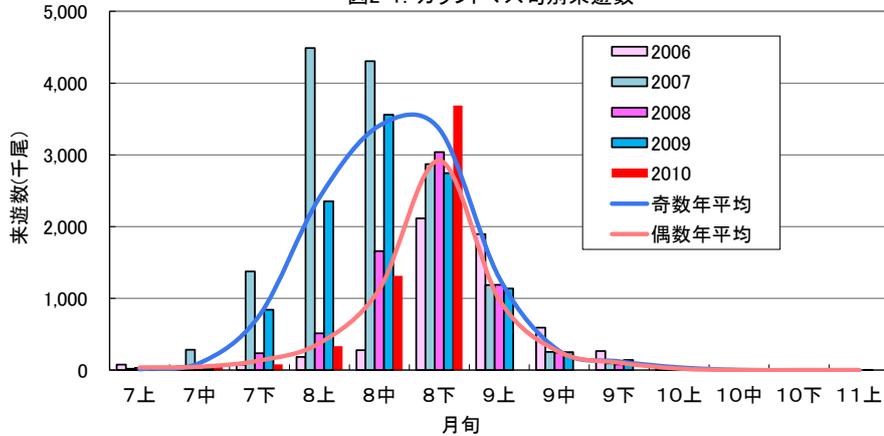


図2-2. カラフトマス旬別累積来遊数

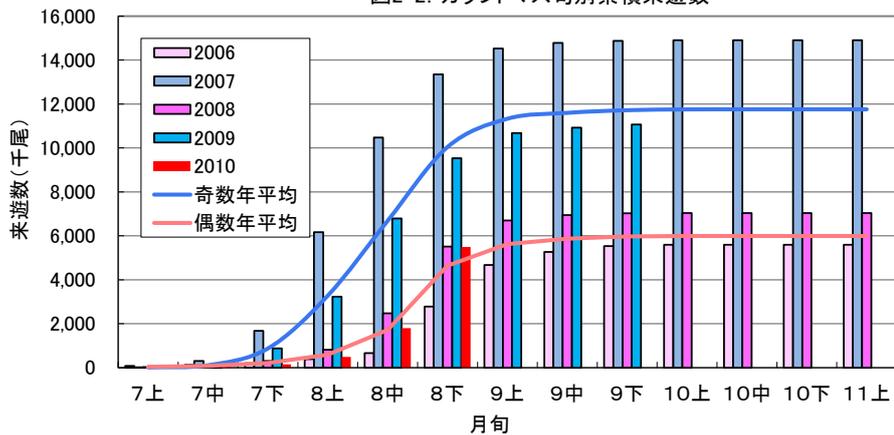
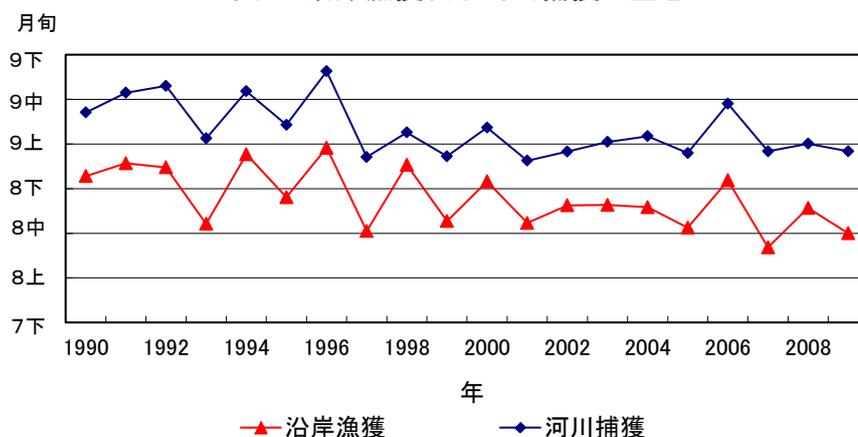


図3 沿岸漁獲及び河川捕獲の重心



カラフトマスの河川捕獲数は、不漁年の影響等により 15 万尾（対前年同期比：26.8%、
 平年同期比：60.0%）と大幅に下回っており（表 1）、主産地である網走及び根室管内では、
 ふ化放流計画に必要な親魚確保のため、沿岸漁業者による自主規制措置等の対策が行われ
 ました。

2 サケ来遊状況

- ・ 来遊数は 62 万尾（対前年同期比：55.9%、平年同期比：63.9%）
- ・ 地域別では太平洋側で 33 万尾、日本海側で 29 万尾となっており、両地域とも前年同
 期及び平年同期を下回る
- ・ ピークとなる 9 月以降の回帰に期待

（北海道）

北海道のサケ来遊数は 62 万尾（対前年同期比：55.9%、対平年同期比：63.9%）となっ
 ています。また、地域別にみると、太平洋側では 33 万尾（対前年同期比：64.7%、対平年
 同期比：52.4%）、日本海側では 29 万尾（対前年同期比：48.3%、対平年同期比：85.3%）
 と、両地域とも前年同期、平年同期と比べて下回っています（表 2、図 4）。

北海道のサケは例年 9 月下旬、又は 10 月上旬をピークに沿岸で漁獲されることから、今
 後の来遊数増加が期待されるところです（図 5）。

表 2：サケ来遊状況（北海道）

単位：万尾

	北海道		北海道太平洋側		北海道日本海側	
	8/31 現在	最終	8/31 現在	最終	8/31 現在	最終
2010 (H22)	62	-	33	-	29	-
2009 (H21)	111	4,804	51	2,655	60	2,149
2008 (H20)	115	3,871	74	2,364	41	1,507
2007 (H19)	142	5,278	100	3,241	43	2,038
2006 (H18)	86	5,359	57	2,807	29	2,553
平年	97	4,707	63	2,847	34	1,860

図4 サケ来遊数(北海道)

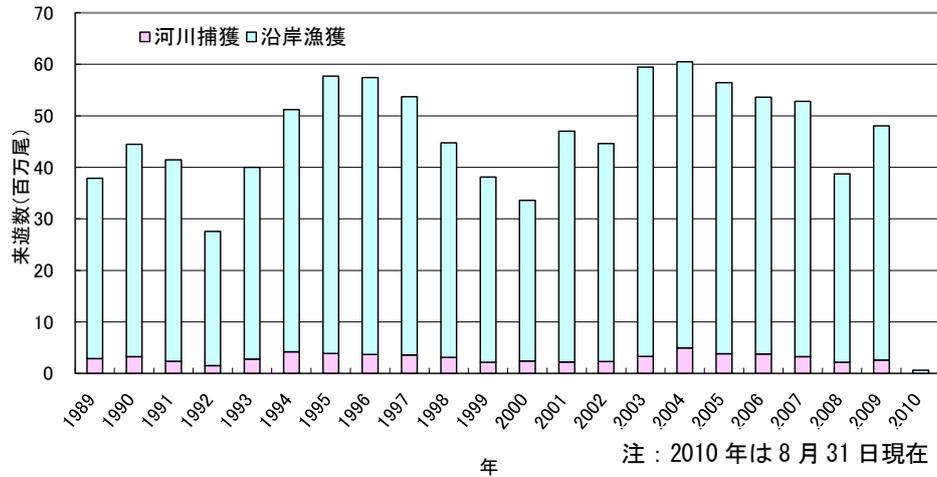
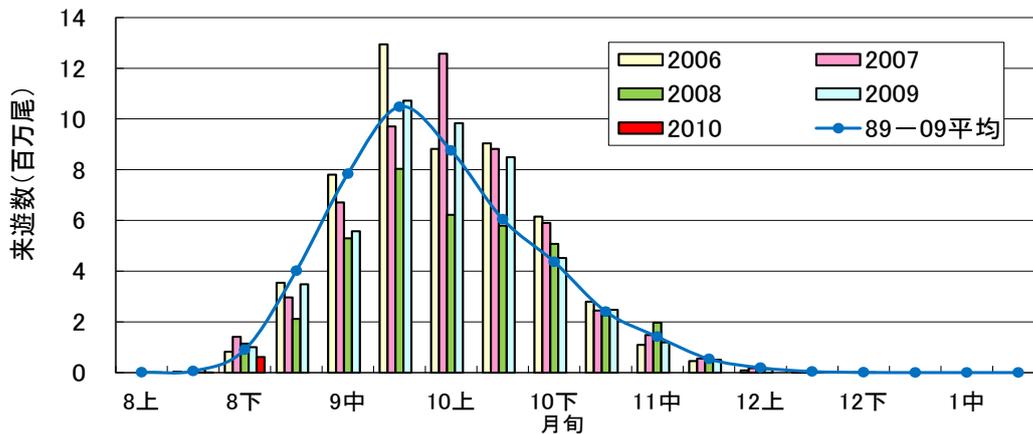


図5 旬別サケ来遊数(北海道)



今年8月下旬における北海道沿岸域の海面水温は、軒並み 20℃を超えている状況となっています。サケは冷水性の魚類なので、一般的に高水温は避ける傾向があり、早めに来遊するサケが高水温を避けて接岸が遅れている可能性が考えられます。

2006 (平成 18) 年以降における同時期の海面水温を調べてみると、2006 年及び 2007 (平成 19) 年は全ての海域で平年より高い傾向が示されていました。特に、2006 年は平年と比べても 2℃以上、場所によっては 4℃以上も高く、ほぼ全ての沿岸域で 20℃以上となっていました。来遊状況としては、8月までは多少の遅れが見られたものの、9月以降は順調な来遊となりました。一方、過去のデータの分析から千島列島南東側水域の 9月の平均水温が高いと、北海道におけるサケの回帰率が低下する傾向が認められますが (<http://salmon.fra.affrc.go.jp/zousyoku/20090804hendo/12.gif>)、その水域の水温は北海道沿岸域とは異なり、現在のところほぼ平年並となっています。従って、その傾向が変化しなければ漁期の遅れはあるものの最終的な回帰の水準は平年並に落ち着くものと考えられます。

これまでのところ、今年は勢力が強い太平洋高気圧の出現等による猛暑の影響で2006年を上回る高めの水温条件となっており、今後も海況変化に着目しながら沿岸来遊及び河川遡上の状況を監視する必要があります。

3 北日本の海況

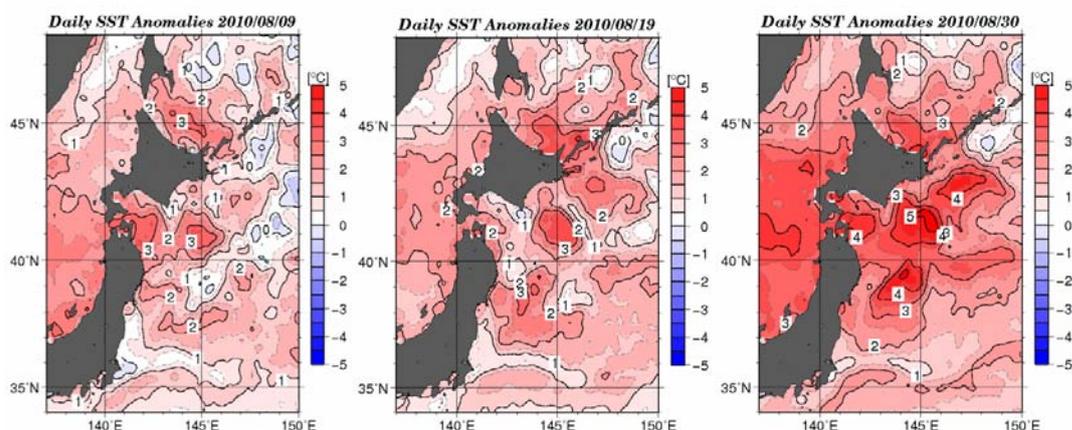
気象庁における「海洋の健康診断表」によると、8月下旬の北海道周辺・日本東方海域の海面水温は、全般に平年より高く、特に、日本海北部と北海道の南から三陸沖にかけての海域では、海面水温が平年よりかなり高くなっています。

(平成22年8月31日函館海洋气象台発表)

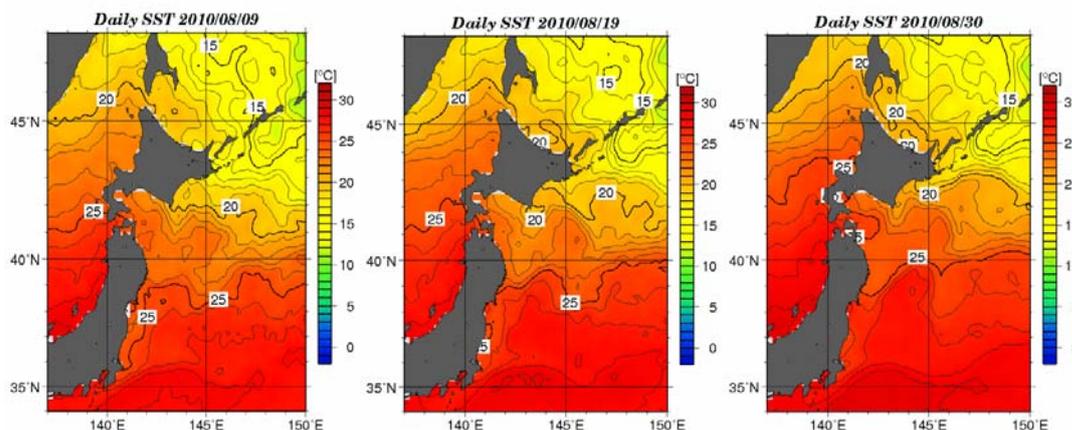
http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/shindan/e_1/hakodate_sst/hakodate_sst.html

同じく8月31日発表の海面水温・海流1か月予報(参照)によると、向こう1か月の海面水温は、日本海北部と本州東方では平年より高く、オホーツク海南部でも平年より高い状態が続きますが、9月中旬以降平年並に近づく見込みです。

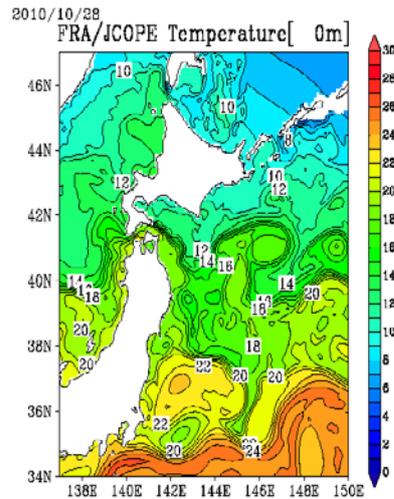
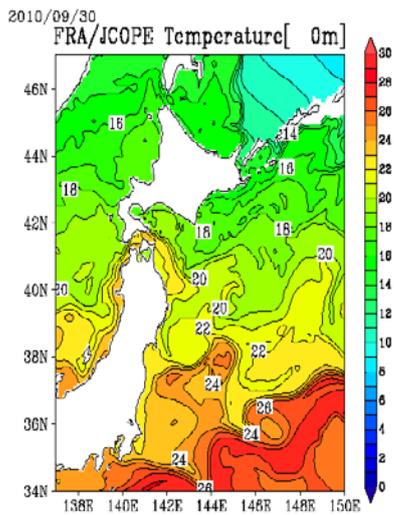
○海面水温偏差図



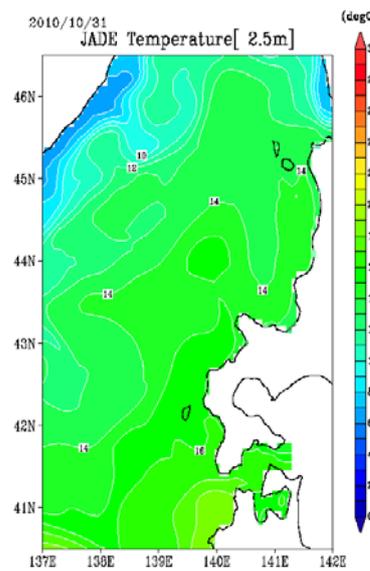
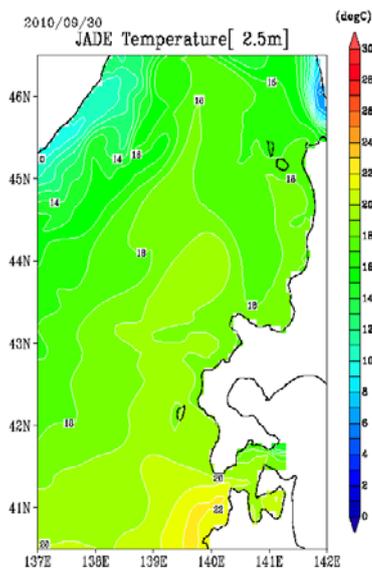
○海面水温図



なお、水産総合研究センターの「太平洋および我が国周辺の海況予測モデル (FRA-JCOPE)」、「日本海海況予測図 (JADE)」では、北海道・東北ブロック及び日本海の海況と2ヶ月間の予測を公開しており、一般の方も次の内容がご覧になれます。



(FRA-JCOPE) <http://fj.dc.affrc.go.jp/>



(JADE) <http://jade.dc.affrc.go.jp/>